

第1回 国立市富士見台地域重点エリア検討会議 議事要旨

1 日時:令和8年5月20日(水) 午後7時～9時

2 場所:国立市 会議室棟 さくらのへや、うめのへや

3 出席者:【出席委員】

小泉委員、近藤委員、高取委員、土屋委員、望月委員

【市・事務局】

国立市長 濱崎、都市整備部長 立川、富士見台地域まちづくり担当課長 三澤、布施、立花他

4 傍聴者:9名

5 議事:(1)委員長の選任について

(2)国立市富士見台地域重点エリアで大切にしたい考え方について

6 配布資料:・資料1 国立市富士見台地域重点エリア検討会議委員名簿

・資料2 国立市富士見台地域重点エリア検討会議設置要綱

・資料3 第1回 国立市富士見台地域重点エリア検討会議資料

・資料4 重点エリア等に関する意見まとめマップ

・資料5 今後の予定

7 内容:

(1) 委員長の選任について

委員長の立候補及び推薦がなかったため、市より小泉委員を委員長として推薦し、委員全員の同意を得た。

(2) 国立市富士見台地域重点エリアで大切にしたい考え方について意見交換

市より、富士見台地域では、施設の老朽化や高齢化の進行を踏まえ、「団地再生」と「公共施設再編」を一体的に捉えた土地利用方針の検討を進めていることが説明され、検討に当たっては、まず重点エリアの「あるべき姿」を整理し、その実現に向けた土地利用方針を検討していくことが示された。検討対象には、市役所、富士見台第二・第三団地、谷保第三公園に加え、将来的な消防署や保健センターも含め、市民意見や専門的知見を踏まえながら検討を進めていくことが説明された。

委員長より、「社会経済的大転換に対応した持続可能な都市デザイン」をテーマに話題提供が行われた。田園都市や近隣住区理論、SDGs、「15分都市」などの考え方が紹介され、富士見台地域においても歩いて暮らせるまちや緑豊かな公共空間を活かしたまちづくりの重要性が示された。

その後、「重点エリアで大切にしたい考え方」をテーマとして意見交換を行った。

委員

○社会変化のスピードが速い時代であるため、具体的な整備内容だけでなく、将来の変化にも対応できる柔軟性を持った目標設定が重要である。

○「ワクワクする」「ホッとする」といった利用者の感覚に寄り添う表現で将来像を示す方法も有効ではないか。

委員

○「大切にしたい考え方」を束ねる上位概念として、「コモンズ(共有空間)」のような理念を設定することも有効ではないか。

○地域に蓄積された資産や魅力を活かしながら、市民の感覚に寄り添ったまちづくりを進めるべきである。

委員

○コンセプトの重要性は理解するが、住民は具体的な将来像を求めている段階でもある。

○子どもや高齢者にとって安心できる「土のある環境」や緑の空間を大切にしていけるべきである。

市・事務局

○土や緑のある環境については、団地空間だけでなく公共空間も含めて実現可能性を検討していきたい。

委員

○これまで蓄積されてきた市民意見はよく整理されていると感じる。

○国立市では市民参加が重要であり、市民が主体的に関わらなければ計画は実現しないと考える。

○市民が「自分たちが作った」と感じられる計画づくりが重要である。

○OUR 都市機構の考え方や今後の方向性についても共有しながら議論を進めてほしい。

市・事務局

○OUR 都市機構から現時点で示されている考え方については、本日提示した「大切にしたい考え方」に反映している。

○プロポーザルでは、団地と公共施設の間で、住民が誇りに思えるような共通の価値を創出が重要と提案があった。資料については情報公開手続きにより閲覧可能である。

○公共空間と団地空間が連続し、一体的に利用されるような環境形成の可能性も含めて検討していきたい。

○市民との対話を重ねながら計画づくりを支援していきたい。

委員長

○今後、複数の土地利用案が示された際に評価するための「ものさし」として、まちづくりの理念やキーワードを整理していくことが重要である。

○国立市は住民参加によるまちづくりの歴史を持っており、市民との対話を重視した計画づくりが必要である。

○市民が「自分たちが作った」と思えるプロセスそのものが、まちの価値につながる。

委員

○富士見台地域だけでなく、南部地域に残る農地や自然環境も大切な地域資源として活かしていくべきである。

委員長

○南部地域とのつながりは重要な視点である。

○富士見台地域の自然環境を地域全体の共有財産として位置付けることが、緑や農地の保全にもつながる可能性がある。

委員

○市民が「自分たちが作った」と実感できる仕組みや計画づくりを進めるべきである。

○市民の共感を得られることを評価軸の一つとして位置付けることも有効ではないか。

委員長

○今後、市民が共感できるコンセプトを形成するとともに、市民が主体的に関わることを計画の重要な要素として位置付ける必要がある。

委員

○「あるべき姿」は土地利用案を評価するための上位概念であり、評価軸と行き来しながら検討することが重要である。

○抽象的な理念と具体的な課題を往復しながら議論を深めるべきである。

市・事務局

○土地利用方針の検討は一方向ではなく、「大切にしたい考え方」「あるべき姿」「土地利用案」を行き来しながら進めることになる。

○今後、複数の土地利用案やイメージ図を示しながら議論を進めていく予定である。

○提示された案に対して、市民が何を大切に考えているのかを確認しながら計画を磨き上げていきたい。

委員

○全5回の検討会議を通じて、参加者全員が共有できる「あるべき姿」と土地利用の方向性を

まとめていくことが重要である。

委員

○抽象的な理念だけでなく、高齢者の移動のしやすさやバリアフリー化など、団地の実情に即した具体的な課題も計画へ反映していくべきである。

○団地建替えにおけるエレベーター設置など、暮らしに直結する視点も重要である。

委員

○まちづくりでは、空間のデザインだけでなく、市民・行政・UR 都市機構などの関係者が対話を重ねる「関係性のデザイン」も重要である。

○こうしたプロセスそのものが、市民が「自分たちが作った」と実感できるまちづくりにつながる。

委員長

○本日の議論を通じて、柔軟性のあるまちづくり、市民主体のプロセス、コモンスの考え方、緑や自然環境の保全などについて概ね共通認識が得られた。

○次回以降は、具体的な空間イメージや土地利用案を用いながら、「あるべき姿」の具体化に向けた議論を進めていく。

(傍聴者意見)

傍聴者

○歩行者だけでなく、車椅子利用者、歩行補助具利用者、ベビーカー利用者、自転車利用者など、多様な移動手段や身体状況を前提とした動線計画が必要である。

○「しょうがいしゃがあたりまえに暮らすまち宣言」等の理念を計画にも反映すべきである。

委員長

○世代だけでなく、障害の有無など多様な市民の視点についても今後の検討に反映していく必要がある。

傍聴者

○富士見台2丁目・3丁目の住民はどのように検討へ参加できるのか。

市・事務局

○富士見台ミーティングやアンケート、グループヒアリング等を通じて幅広く意見を聴取していく予定である。

委員長

○検討会議と市民意見交換の場を相互に連携させながら、多様な意見を反映していきたい。

市長

○必要に応じて追加の意見聴取の場も検討しながら、丁寧な対話を進めていきたい。

傍聴者

○高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための選択肢として、コレクティブハウスの導入を検討してはどうか。

委員長

○高齢者の「終の棲家」のあり方も重要なテーマの一つとして考えていく必要がある。

委員

○富士見台ミーティング等で出された意見が、今後の案にどのように反映されているのか分かるようにしてほしい。

○今後提示される案は何案程度になるのか。

市・事務局

○初期段階では特徴の異なる複数案を提示し、それぞれに対する意見交換を通じて重視すべき価値観を明らかにしていきたい。

市長

○市民が「自分たちが作った」と感じられるプロセスを大事にしていきたいと考えていますが、そのためには具体的な絵(平面図やパース図、CGなど)を見ながら対話を重ねることが重要と考えている。

(3) 今後の予定について

市より、6月27日(土曜日)の午後2時より FSX アリーナにて「富士見台ミーティング」という市民を対象とした意見を聞く場の開催、第2回検討会議(7月17日)の開催、第3回検討会議(10月14日)の開催の情報提供があった。

以上